

臨床放射線

編集委員

後 閑 武 彦
橋 本 順
今 井 裕
栗 原 泰 之
森 壘
山 下 孝

編集協力委員

畠 中 正 光
小 川 恭 弘
松 永 尚 文
森 宣
村 田 喜 代 史

編集後記

▶画像診断は病理診断の進歩と共に歩んできましたが、診断機器の進歩は時に、病理診断の必要性を減少させているのも事実でしょう。特にPET/CTによる画像診断は、形態学上の異常だけではなく機能的異常も把握できるようになって、いわゆる質的診断の世界が広がっています。一例をお示します。肺癌検診を毎年PET/CTで受けている健常者が、発見されたGGO（すりガラス陰影）診断の下、経過観察を受けました。2年目にわずかに腫瘍形成が始まり、PET/CTでSUVの上昇を認めました。経気管支生検にても腫瘍細胞が確定できず、胸腔鏡手術での癌摘出を呼吸器外科で勧められて、セカンドオピニオンの相談を受けました。手術しないで放射線治療で治せないかとの相談です。早期肺癌のSRT（定位照射）の治療成績と有害事象を説明したところ、SRTを希望したので、5日間の通院治療を行いました。患者は外来通院治療ができるうえに、有害事象は治療中も治療後もほとんどなく、経過観察になったので大喜びでした。なぜ、この治療がもっと広がらないかとの質問さえ受けました。その後、保険審査会から病理診断がついていないので放射線治療をした理由を書くように指示があり、指示に従いました。癌の診断は病理診断が原則であることは知られていますが、画像診断や主要マーカーなどが進歩して、病理診断を仰ぐことなく治療することも増えてきました。診断の進歩により治療法が変わる現状はもっと進む可能性があるの、画像診断医は治療法の進歩を学ぶ必要があるし、放射線腫瘍医は画像診断の進歩を学ぶなければいけないことになるでしょう。

▶さて、今月号は放射線治療の特集が組まれています。進歩著しい放射線治療の一端をお楽しみください。微細な病変を映し出す侵襲少ない画像診断とあいまって、患者さんに優しい治療法が選択されることを願っています。

山下 孝

「臨床放射線」第62巻第9号

2017年9月10日発行（毎月10日発行）

定価（本体2,500円＋税）

年間購読料金 定価（本体39,900円＋税）
[年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代]
年間予約購読者に限り送料無料

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

TEL 03 (3811) 7165 編集部直通

TEL 03 (3811) 7184 営業部直通

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社

広告申込先 福田商店 TEL 06 (6941) 5600

FAX 06 (6941) 5605

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は金原出版株式会社が保有します。

JCOPY < (社) 出版者著作権管理機構 委託出版物 >

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(社) 出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。